

これは、2010年10月28日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

ダイムラーグループは引き続き好調 2010年通期のEBITは70億ユーロ超の見込み

Press Information

2010年10月29日

- ・ 第3四半期グループEBITは24億1,800万ユーロ(前年同期: 4億7,000万ユーロ)
- ・ 純利益16億1,000万ユーロ(前年同期: 5,600万ユーロ)
- ・ 売上高は前年同期を大幅に上回る251億ユーロ(前年同期: 193億ユーロ)
- ・ 2010年1月～9月のフリーキャッシュフローは53億ユーロに増加
- ・ メルセデス・ベンツ・カーズは2010年通期EBIT約45億ユーロを予測
- ・ ダイムラー・トラック通期予測EBITは11億ユーロ超

* EBIT: 利払い前の税引き前当期利益

ダイムラーAGは2010年第3四半期の決算を発表しました。それによると、第3四半期も今年前半6ヶ月に続いて業績はきわめて好調です。第3四半期のグループEBITは24億1,800万ユーロ(前年同期: 4億7,000万ユーロ)と、引き続き順調に推移していますが、これは世界的な自動車市場の回復、魅力的な製品ラインアップ、継続的効率改善策によるものです。

ダイムラーでは第4四半期もこの好調さを維持できると考えています。ダイムラーAG取締役会会長 兼 メルセデス・ベンツ・カーズ部門統括のディーター・ツェツェは、「世界経済は後退に陥る以前ほど安定していませんが、ダイムラーとしては今後も業績は好調に推移すると確信しています」と述べています。なお、2010年通期のEBITは、70億ユーロ超となる見込みです。

第3四半期のEBITは、米国子会社のダイムラー・トラック・ノースアメリカにおける医療費および年金給付水準の調整により1億8,300万ユーロの利益が生じたこと、また、ダイムラーが関わる訴訟への勝訴により2億1,800万ユーロの利益が発生したことによって大きく増加しました。

純利益は、EBITの増益によって大幅に増加し、16億1,000万ユーロとなりました(前年同期: 5,600万ユーロ)。これにともない1株当たりの収益も改善し、1.44ユーロとなりました(前年同期: 0.04ユーロ)。

販売台数は23%増

ダイムラーの世界販売台数は47万5,100台(乗用車・商用車合計)で、前年同期を23%上回りました。

売上高は251億ユーロと、前年同期より30%増加。為替変動調整後では22%の増加となっています。

1月～9月の事業部門フリーキャッシュフローは31億ユーロ増の53億ユーロとなりました。

売上高は251億ユーロと、前年同期より30%増加。為替変動調整後では22%の増加となっています。

2010年第3四半期末現在の従業員数は全世界で25万9,943人(前年同期:25万6,857人)です。このうち、ドイツでの雇用は16万4,589人(前年同期:16万3,538人)となっています。

部門別の詳細について

メルセデス・ベンツ・カーズ部門の販売台数も引き続き増加し、前年同期比17%増の31万7,500台となりました。また売上高は33%増の137億ユーロとなりました。

EBITは前年同期の3億5,500万ユーロを9億4,400万ユーロも上回る12億9,900万ユーロとなり、今年前半の好調を引き続き維持しています。売上高利益率は3.5%から9.5%に改善しました。

大幅な増益は、中国、米国を中心とする販売台数が高い水準で推移したことや、適正なモデル構成比率が実現したことなどによるものです。さらに、価格の改善や、為替レート、保証に関する費用が有効に推移したこともプラスに働きました。マイナス要因としては、研究開発費の増加があげられます。

ダイムラー・トラック部門では販売台数は9万4,800台と、前年同期の6万6,100台から大幅に増加、売上高は47%増の64億ユーロとなりました。 Page 3

EBITは前年同期のマイナス1億2,700万ユーロから6億2,700万ユーロ改善し、5億ユーロとなりました。売上高利益率は7.8%でした。(前年同期: マイナス2.9%)。

大幅な増益の最大の要因は、すべての主要市場で販売が好調だったことです。また、2つの子会社、ダイムラー・トラック・ノースアメリカと三菱ふそうトラック・バスのポジショニングの見直しを中心とする効率改善策の継続も奏功しました。さらに、ダイムラー・トラック・ノースアメリカにおける医療費および年金給付水準の調整によって1億8,300万ユーロの利益が生じたこともプラスの要因となっています。逆に、長期保証およびサービス義務の再評価に関連する費用や研究開発費の増加が減益要因となりました。

メルセデス・ベンツ・バン部門は販売台数が5万3,700台(前年同期: 4万100台)、売上高は19億ユーロとなり、前年同期の16億ユーロを大きく上回りました。

EBITは1億2,200万ユーロ(前年同期: 100万ユーロ)、売上高利益率は前年同期の0.1%から6.4%へと改善しました。同部門の大幅な増益は、前年同期に比べて販売台数が大幅に増加したことが最大の要因となっています。また、継続的な効率改善も奏功しました。

ダイムラー・バス部門では販売台数(バスおよびバスシャーシ)が9%増の9,100台となりました。この増加は、シャーシ販売が引き続き好調なことのみによるものであり、売上高は前年同期よりわずかに低い10億700万ユーロとなっています(前年同期: 10億2,400万ユーロ)。

EBITは1,100万ユーロ(前年同期: 2,300万ユーロ)、売上高利益率は1.1%でした(前年同期: 2.2%)。これはおもに不利なモデル構成比率によるもので、バスシャーシの納入が増加したのに対して、バス完成車の販売台数は減少しています。

ダイムラー・ファイナンシャル サービス部門は、契約額が611億ユーロと、2009年末に比べて5%増加しました。為替調整後の伸び率は0%となります。新規事業は73億ユーロへと増加しています(前年同期: 60億ユーロ)。

EBITは3億1,700万ユーロと大幅に増加しました(前年同期: 1億100万ユーロ)。増益の主な要因は、リスク対策費用の減少と金利差益の増加となっています。

今後の見通し

各部門の計画にもとづき、ダイムラーグループ2010年の通期総販売台数および売上高は前年実績の160万台および789億ユーロを大幅に上回るものと予測しています。

2010年のEBITについては、全部門とも業績好調であることから、70億ユーロ超を見込んでいます。

この予測は、経済が引き続き安定的に推移し、グループ製品の好調な販売が続くと仮定にもとづくものです。最大のリスクとしては、国際金融市場の変動の大きさとマクロ経済の悪化が考えられます。

各部門の2010年通期のEBIT修正予測は以下の通りです。

- ・ メルセデス・ベンツ・カーズ: 約45億ユーロ
- ・ ダイムラー・トラック: 11億ユーロ超
- ・ メルセデス・ベンツ・バン: 約4億3,000万ユーロ
- ・ ダイムラー・バス: 約1億8,000万ユーロ
- ・ ダイムラー・ファイナンシャル サービス: 9億ユーロ超

増益の主な要因は、リスクコストの減少と金利差益の増加があげられます。これに加え、非自動車関連資産(2,600万ユーロ)の売却に関連して利益が発生しました。また、ドイツにおける事業の位置づけの変更により、7,800万ユーロの支出が発生しています。

メルセデス・ベンツ・カーズ部門は新型Eクラスをはじめ、現行ラインアップの販売が好調なことから、年末まで順調に推移する見込みです。新型スーパースポーツカーメルセデス・ベンツSLS AMGとRクラス、CLクラスの新世代モデルも販売台数を押し上げる要因となります。2010年第3四半期からは、超低燃費の新型6気筒および8気筒ガソリンエンジンを順次導入しています。スマートについては、新世代スマートフォーテューの発売を受けての需要増加を見込んでいます。魅力的で競争力にすぐれたモデルを持つメルセデス・ベンツ・カーズ部門では、メルセデス・ベンツ・ブランドにおける2010年の販売台数は前年比2ケタの伸び率を予測しています。

ダイムラー・トラック部門では、世界的な市場の回復により販売台数は引き続き順調に推移すると見込んでいます。とくに、欧州、インドネシア、ブラジル、米国で大きな伸びが予測されます。メルセデス・ベンツのトラック、アクソルおよびアテゴの新型導入による販売の大幅増が期待されます。新型アテゴとアテゴBlueTec Hybridは、ドイツで開催されたIAA商用車ショーにおいて「トラック・オブ・ザ・イヤー2011」に選ばれました。米国では、BLUETECテクノロジーを搭載し、EPA10排ガス規制に適合した新世代大型エンジンにより、フレートライナーのトラック需要が増加しています。アジア地域では、三菱ふそうが第4四半期に発表する新型キャンターが販売をさらに加速するものと期待されます。

メルセデス・ベンツ・バン部門では、バン需要の増大と市場の回復、それに新世代ピトーおよびピアノの発売を背景に、前年に比べて大幅な販売台数の増加を予測しています。

ダイムラー・バス部門でも、ラテンアメリカの各市場でのシャーシ販売が堅調なことから、今年は販売台数の増加を見込んでいます。ただ、西欧では市場の低迷から販売台数は前年を割り込むものと予想されます。

ダイムラー・ファイナンシャル サービス部門では、2010年通期は世界的な信用リスクコストの減少を見込んでいます。為替変動の影響を除いた契約額は、第4四半期は安定して推移するものと見られます。

ダイムラーグループでは需要が増加に転じたことから、世界における従業員数は、2009年末よりわずかに増加すると予測しています。